

# 水族館へ行こう!

75

白山 義久

## 京都大学白浜水族館

どの言語でも同じだが、食べられるものとか人の関心の高い生物は細かく名前が付けられている。白浜水族館の二枚貝のコーナーには、イガイの仲間が何種類か展示されている。これも英語で特別に「Mussele」

という。いわゆるムール貝のことである。紫色をした日本産のイガイには「ムラサキイガイ」という和名が付いているが、その種の学名は「Mytilus edulis」であると言われてきた。まさに「食べられるイガイ」という名前である。この種は大西洋が模式産地で、海運の発達に伴って世界中に広がったと考えられている。

最近田辺湾で増えてい  
るミドリイガイ(水産  
番号207)



## 食用貝、所変われば厄介者

た。しかし、最近の分子生物学の研究によって、日本で「ムラサキイガイ」と呼んでいる種類は、地中海産の同属別種であることが分かった。これによって、学問的にかんりの混乱が生じた。例えば「ムラサキイガイ(M. edulis)」の生態について「というよ  
うなタイトルの日本語の論文が多数あるが、本当は地中海産の別種について書いた可能性が高い。日本産の海産動物には、欧州産の種と同じとされているものが少なくないが、慎重な検討をしないと、後の研究に悪影響を与えるという警鐘を鳴らしてきた例の一つとなっている。  
最近、田辺湾では緑色をした「ミドリイガイ」という種が目立つようになった。もともと熱帯から亜熱帯海域に分布するPerna属のイガイの仲間で、(京都大学瀬戸臨海実験所長)

## イガイの仲間